



No.8 2014-7 発行

## 「多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療」の紹介

形成外科 西尾 明子

「多血小板血漿を用いた難治性潰瘍治療」が、第2項先進医療として厚生労働省より認められ、当院でも臨床治療が開始されました。多血小板血漿（PRP）を用いた治療法とは、患者さん自身の血液を遠心分離器にかけて作成した血小板濃縮液を、潰瘍部位に適用して組織再生を促すものです。血小板には、上皮増殖因子（EGF）や、血小板由来増殖因子（PDGF）などの組織増殖因子が多量に含まれており、皮膚においては真皮再生、上皮化促進に機能するといわれています。対象は、通常の治療に抵抗性を有する難治性潰瘍のうち、身体の状態などにより手術による治療が困難な場合とされており、実際には末梢循環が悪化した糖尿病や閉塞性動脈硬化症の患者さんに好発する足潰瘍、脊髄損傷や寝たきりの患者さんに発生する褥瘡などが適応となります。

形成外科では、無菌的に PRP の調整が可能な全自動多血小板血漿分離装置を導入し、第2項先進医療に承認されたことから、この治療の先進医療による臨床応用を開始しました。難治性皮膚潰瘍の治療には、従来、外用剤や被覆材を使った保存的治療、および、植皮術や皮弁などによる外科的治療が行われてきました。PRP を使った治療は、保存的治療を長期間続けても改善の見られない患者さんや、全身状態の悪化により手術に耐えられない患者さん、また、患者さん自身が手術を望まれない場合などに選択しうる、新たな再生医療技術です。

治療を希望する患者さんには、まず当院形成外科を受診して診察を受けていただき、この治療ができるかどうかを判断したうえで、詳しい治療内容についてご説明いたします。

（問い合わせ先）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

[regional@kanazawa-med.ac.jp](mailto:regional@kanazawa-med.ac.jp)

Kanazawa Medical University Hospital